

## 研修報告書 No. 6

所 属： 東京大学医学部附属病院

研修先： 土佐市民病院

この度、2024 年度地域医療研修におきまして 1 か月間、土佐市民病院にて研修を行いましたので報告いたします。

まず、研修内容は、病棟業務、外来業務、救急対応、外科手術と多岐にわたり、とりわけ外来診療は毎日行い大変貴重な経験となりました。医師臨床研修においては、病棟管理を行うことが多く、入院患者さんに対して経過を見ながらじっくりと検査や治療を施行していくことがメインでした。しかし、外来診療では初診の患者さんに対し、短時間で診断し治療の方針を決めていくことが求められます。患者さんの訴えから病因となる疾患を想起し、検査はどの程度まで行ったらよいか、入院まで必要か、次の外来でもフォローができるのかなどを瞬時に判断する必要があり、日々学びの連続でした。土佐市民病院の先生方はとても優しく熱心で、何か困ったときや判断に迷ったときは常に上級医の先生にも相談でき、指導してもらえる環境も整っていたので、安心して診療を行うことができました。研修開始時は、診療に時間を要し、なかなか進まず苦戦していましたが、毎日診療する中で時間の使い方や検査の必要度を組み立て、医療スタッフの皆さんの手厚いサポートもあり、徐々に診療できる患者さんも増えていきました。今後もさらなる診療技術の向上に努めていきたいと考えています。

研修を行った土佐市民病院は、地域の中核病院として機能面でも役割面でも充実していると感じましたが、やはり首都圏の病院とは異なり、すべての診療科があつたり、連携病院が近接していたりするわけではありません。限られた資源の中で患者さんの病状に対して可能な限り対応していくため、勤務する先生方も自分の専門分野だけでなく多岐にわたって診療を行い、専門職や医療スタッフの方々と日々密に連携し取り組んでいる姿は、非常に感銘を受け、自分自身も日々何ができるかを考え、患者さんのプロブレムに対ししっかりと対応できるように研鑽を積んでいかなければならないことを改めて実感しました。

次に今回高知に来て感じたことは、長命な方が多く、90 歳を超える方が独歩で来られるケースも多く見られとても驚きました。また、高知県は、高知市を除くと中核病院は限られ、長距離での移動を伴う患者さんが多くいる現状を知る機会となりました。とりわけ夜間帯には長距離搬送も多く、近隣の医療機関では受け入れができず来院されたケースも経験しました。加えて高齢者の独居も多く、病院と自宅をつなぐ施設も少なく、介護福祉サービスも追いつかない状況があることも目の当たりにしました。このような高齢の独居の方や遠方からの患者さんに対して、退院後の通院や ADL の維持、社会的背景についてもしっかりと考え対応していかなければならず、より地域における病院の重要性が増していることを改

めて実感するとともに、日本全体においても高齢化や過疎化が進みつつある現状で、私たち一人ひとりが自身の問題として捉えていき、行政、地域、医療が協力し、社会全体として対応していかなければならないことを感じました。

最後に、高知県は、海、山、川に囲まれ、自然豊かな環境があり、海産物、畜産物、果物をはじめとする数多くのおいしいものがたくさんあり、皆さん優しく、気にかけてくださり、地元の方とも接する機会も多く、充実した生活を送ることができました。魅力がたくさんあるこの高知県において、医療としても、プライベートとしてもまた来たいなと強く思いました。

今回、外来診療の経験や地域医療を考える機会を持つことができ、丁寧に指導して下さった土佐市民病院のスタッフの皆様、研修をサポートして下さった高知医療再生機構の皆様、そして、研修にご協力いただきました患者様や市民の皆様のご協力によって充実した地域研修を送ることができました。関わって下さった全ての皆様に、この場をお借りし心より御礼申し上げます。